

学部・研究科名 農学部
学部長・研究科委員長名 小川 博
学科名・専攻名 農学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	カリキュラム・ポリシーに基づき、毎年見直しを行っている。とくに2018年度4月からの学部改組にともない、授業科目の見直し・変更を行った。	3年生以降の演習および卒業論文作成を意識した教育を、1年生対象の基礎演習など複数の科目で行った。とくにプレゼンテーション力を高めることを目的とした。	シラバス作成、成績評価を大学の基準を順守して行った。またディプロマ・ポリシーの見直しを行い、教員間で共有した。	実験、演習、農業実習のほか卒業論文を必修としている。とくに卒業論文は、学生とのコミュニケーションが必要となり、学習成果を適切に把握・評価する上で、重視している。また客観的評価法の確立に向けた試行（PROGなど）を始めた。	教育課程及びその内容、方法の適切性は、学科長・主事他数名の教員からなる農学科教学委員会を設置し協議している。定期的に学科会議などに諮問、協議して、改善・向上を図っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・実習を重視したカリキュラム体系になっている。	【長所】 ・卒業論文を早い段階で意識させ、プレゼンテーション力を身に付けさせられる。	【長所】 ・実習を重視することで、知識だけでなく、思考力、判断力、問題解決能力を身に付けさせられる。	【長所】 ・全員に卒業論文に取り組ませることで、学習成果の把握を可能としている。	【長所】 ・農学科の特徴である実習重視の教育方針を、堅持できている。
	【特色】 ・伊勢原農場の協力を得ながら、濃い内容の実習教育を実施している。	【特色】 ・情報基礎（一）（二）を学科独自に開講している。	【特色】 ・社会人として主体的、協働的な活動ができる能力も重視している。	【特色】 ・卒業論文は調査論文も認めており、卒業生の幅広いニーズに対応している。	【特色】 ・実習は伊勢原農場の協力が欠かせない。協力を得ながら、中身の濃い内容となっている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・旧カリ、新カリ科目が併存している。学生の個々の履修において不利が生じないよう、随時改善を図る必要がある。
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	資料1	資料2	資料3	資料4	資料5

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☐ している ☒ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	入試課と連携して、入試制度の整備・点検に取り組んだ。学部改組に伴い、アドミッション・ポリシーの見直しを図った。とくに2018年4月からの学部改組が実施され、学科の独自性を確保しながら、農学部全体を盛り上げるべく、学生募集等に取り組んだ。	農学部入試広報委員会と連携を取りながら、改善・向上に向けて取り組んでいる。とくに出張講義には力を入れて、高校生からの反応を見極め、アドミッション・ポリシーなどの改善に活かした。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学部改組の中で、適切な入試制度の保持につとめた。	【長所】 ・入試課を中心に、農学部3学科と連携して制度や体制の見直しを図っている。
	【特色】 ・編入試験の在り方が大きく変化する中で、引き続いて公正な実施に向けて体制を整備した。	【特色】 ・農学部全体の取り組みの中で、農学科としてできることを明確にした。その中で、生産農学という軸は維持しつつ、消費者との連携を意識することにした。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	資料6	資料6

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本年度、大学、学部の方針にのっとり、農学科でも以下の通り明示した。 1. 持続可能な次世代型農業の創造に貢献できる教員 2. 農学に関する知識を基盤に、作物生産の発展に資する教育・研究能力を持つ教員 3. 農学に関する知識を基盤に、農産物の生産から流通までを支える技術の発展に資する教育・研究能力を持つ教員	学科の教育研究上の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを十分理解し、その具現化に向け強い意欲を持つ教員を研究室に配置した。 新人事を進めるにあたって、編制方針を意識した。	学部改組に伴い教員募集、採用、昇任などを適切に行った。来年度4月人事に向けて、審査・面接等、適切に実施した。	研究室(学科)横断型プロジェクトの推進などを通じて、教員の質の向上に努めた。	学部改組にともない、農学科も新生農学科として生まれ変わり、研究室を改変した。また次年度の教員の採用に際し、選考委員会などを通じて、農学科の未来を見据えた議論を行った。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・農学科のディプロマ・ポリシーにのっとり内容になっている。	【長所】 ・実習教育を意識した教員配置になっている。	【長所】 ・なし	【長所】 ・研究室間、学科間のコミュニケーションを意識して、プロジェクト研究の立ち上げ、実行に力を入れている。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・研究室はもとより、分野を意識した内容になっている。	【特色】 ・研究活動を教育に活かせる教員を配置している。	【特色】 ・なし	【特色】 ・地域社会とも結びつくことで、研究成果の社会還元に取り組み、教員の資質向上を図っている。	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	資料3	資料3	資料7	資料8	資料9

学部・研究科名 農学部
学部長・研究科委員長名 小川 博
学科名・専攻名 動物科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 講じている ☒ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	H30 年度に農学部を改組するため、現畜産学科の配当科目を新学科対応用に学部として再編成している。	教育・研究に関する学生の発表を教室以外のオープンスペースで積極的に実施している。	成績判定会議の結果を学科教員全員に開示し、確認している。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は、毎年学科会議で確認している。	教育課程及びその内容、方法の適切性について学生による授業評価を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学部としての学生像もふまえた、学部共通科目の充実	【長所】 ・討論へ自由参加	【長所】 ・成績評価の共通理解	【長所】 ・学習効果の共通理解	【長所】 ・定期的に点検・評価
	【特色】 ・ 3 学科対制から 4 学科体制 ・ 農学リテラシー	【特色】 ・ オープンスペースの活用	【特色】 ・ なし	【特色】 ・ なし	【特色】 ・ なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・ なし	【問題点】 ・ なし	【問題点】 ・ なし	【問題点】 ・ なし	【問題点】担当教員の評価が適切であるのか現状では判断出来ない。
	【課題】 ・ H30 年度に農学部を改組するため、新学科で検討している。	【課題】 H30 年度に農学部を改組するため、新学科で検討している。	【課題】 H30 年度に農学部を改組するため、新学科で検討している。	【課題】 H30 年度に農学部を改組するため、新学科で検討している。	【課題】 H30 年度に農学部を改組するため、新学科で検討している。
根拠資料名	カリキュラム・ポリシーとシラバス	オープンスペース利用記録	合同教授会、進級等の資料	学科会議議事録	全学 FD 委員会でデータを保管。

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	学部としての学生像を踏まえ、学科の独自性を確保しながら、学生募集等に取り組んだ。	出張講義には力を入れて、高校生ならびの高校教員からの反応を見極め、アドミッション・ポリシーなどを改善した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・アドミッション・ポリシーに基づいた入学試験科目の検討	【長所】 ・学部としての制度や体制の見直し
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・H31 年度入試科目には反映出来なかった	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	世田谷入試センター入試選考委員会議事録	世田谷入試センター入試選考委員会議事録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ つなげている ☒ 一部つなげている ☐ つなげていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学・学部の方針に則り、生命科学関連および良質で安全な食料を生産する生産科学領域で活躍できる人材を養成し得る強い意欲と能力を持った教員	教育研究上の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを十分理解し、その具現化に向け強い意欲を持つ教員を研究室に配置した。	教員の募集、採用は完全公募制とし大学ホームページならびに JRECK-IN で公開している。 昇格基準を満たした教員に対しては、昇格申請を提出する様に指導している。	任期制教員に対しては、毎年教育・研究目標の達成状況を面談にて確認している。 任期制教員以外は、大学が実施している自己点検のみに委ねている。	・年2回、学科教授会において教員組織の適切性（特に職階と年齢構成）について確認している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・ディプロマ・ポリシーに基づいている	【長所】 ・学際的領域をカバー出来る学科教員体制	【長所】 ・複数の媒体に寄る公募のため一募集あたり 15 名前後の応募がある	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・研究室、分野を考慮した編成	【特色】 ・なし	【特色】 ・学部長、学科長、分野主任に寄る面談	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・一部昇格が停滞している教員がいる	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名					

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名小川 博

学科名・専攻名生物資源開発学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ している ☒ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教育課程の編成の考え方及び特色に従って、体系的に編成している。	オムニバス形式の講義を一定数開講し、講義資料を事前にウェブ上に掲載することで、学生の教育効果を高めると同時に、複数教員間での内容の相互確認を行なっている。	シラバス等で科目ごとに評価基準を明記すると同時に、初回に口頭で学生に説明している。	現時点では、1年次生しか在籍していないが、オリエンテーションやフレッシュマンセミナー、実習・演出、必修の専門基礎科目時に学科の教育・研究目標を明示し、レポート等で学習成果の把握に努めている。	改組に伴い1年次生の実習・演習がほぼ学部共通の内容となったことで、学科内での点検のみならず、学科横断的な検討委員会を設置し、内容の改善・向上に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・1年次から、農学の基盤となる「生物多様性」を意識した教育を実施している。	【長所】 ・シラバスに沿った授業内容であることを担当の複数教員間で相互に確認している。	【長所】 ・特になし	【長所】 ・実習ではポートフォリオの作成を指導している。	【長所】 ・教職員と事務職員で構成される「改組検討委員会」を設置している。
	【特色】 ・1年次から、座学のみならず、実習・演習科目を前・後期に配置している。	【特色】 ・学生ポータルを活用した講義資料の事前提供を行なっている。	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・学科横断的な改組に関する検討委員会を定期的に開催している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名					

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本学科は特定の農用生物のみならず、野生の動植物から昆虫、薬草とそれらの遺伝資源に至る幅広い生物に興味関心を持つ学生を求めており、入試課とも連携して入試制度を整備し、学生募集等に取り組むとともに、公正な入学者選抜に努めた。	現在は1年次生しか在籍していないが、学科独自の新入生アンケートを実施し、入学後のミスマッチが起きないように、学科教員間で情報共有に努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・農学系のみならず理学（生物学）系、薬学系志望の学生にも魅力的な学科であること。	【長所】 ・アンケートを活用した入学後ミスマッチの防止に努めていること。
	【特色】 ・近年、農学分野でもその重要性が認識されはじめた「生物多様性」をキーワードとした学科紹介を徹底していること。	【特色】 ・学科のパンフレットを作成するとともに、出張講義、進学相談などあらゆる機会を捉えた広報宣伝活動による学科の教育・研究への理解促進に努めたこと。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名		H30 新入生アンケート H30 新入生アンケート集計 学科パンフ

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学・学部の方針ならびに学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教員組織の編成の考え方及び特色に従った方針を学科として明示している。	学科の教育研究上の目的を十分理解し、その具現化に向けた強い意欲を持つ教員を配置した。	設置一年目であるが、今後の大学院設置を意識し、昇任等適切に行なっている。	学内外の研究費への積極的な応募による教員の個人研究の推進、他機関研究者との共同研究の推進、さらには研究室や学部横断型の学内外プロジェクトの推進などを通じて、教員の資質の向上に努めている。	教育・研究以外の業務が特定教員に偏らないよう、学科会議等を通じ、組織内での役割分担の点検・評価を行うとともに、事務職員との連携を深め作業の効率的を計るよう努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・実験系とフィールド系教員のバランスを意識したこと。	【長所】 ・実験系とフィールド系のバランスが取れた教員組織となっていること。	【長所】 ・大学院設置を意識した人事計画。	【長所】 ・調査・研究に対する意欲が高い教員が多いこと。	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・農学の基盤となる「生物多様性」をキーワードとする学科であるため、「植物・動物・昆虫・薬草・遺伝資源」と多様な分野をカバーする教員組織を謳っていること。	【特色】 ・農学のみならず理学、薬学、人間環境学と多様な分野をカバーする教員構成となっていること。	【特色】 ・特になし	【特色】 ・ほぼ全教員が学内外の研究費を獲得し、個人、共同研究プロジェクトを遂行するとともに、教育にも還元する努力をしていること。	【特色】 ・事務組織との連携を意識していること。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名					

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名小川 博

学科名・専攻名デザイン農学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教育課程の編成の考え方及び特色に従って、体系的に編成している。	講義以外にも学生が積極的に関わることのできるプログラムとして、夏休みの地域調査の他、地域経済活性の四つのプログラム作成し、学生がいつれかに参加している。	シラバス等で科目ごとに評価基準を明記している。大学の基準に従った成績評価および単位認定を行った。開設年度であり、学位授与はない。	学科の開設年度であるが、学生の履修状況等を教員で共有し対応している。	改組に伴い1年次生の実習・演習がほぼ学部共通の内容となったことで、学科内での点検のみならず、学科横断的な検討委員会を設置し、内容の改善・向上に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・オリエンテーションを含め、積極的に社会と関わるプログラムを設定している。	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・様々なプログラムに学生が積極的に参加している。	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名					

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 （☑を記入）	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☐ 一部行っている ☒ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	アドミッションポリシーに従った学生募集及び公正な入学者選抜を実施した。	新設学科であるために行っていないが、今後実施する予定である。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学科の特色でもある文系志望の学生を獲得するために文科系の入試科目を設定している。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	学科会議議事録	

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☐ している ☐ 一部している ☒ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☐ 一部行っている ☒ 行っていない	☐ つなげている ☒ 一部つなげている ☐ つなげていない	☐ 行っている ☐ 一部行っている ☒ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	新設学科であることから、今後の適切な教員組織編成に関して、随時検討する予定である。	学科を新設する際に予定された組織編成となっている。	新設学科であり、まだその状況にないが、これから適切に実施する予定である。	学科会議等で検討を行っている。	新設学科であることから、今後定期的に点検評価を実施する予定である。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名					

学部名 農学部
学部長名 小川 博
学科名 バイオセラピー学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	カリキュラム編成については数年に一度行われるカリキュラム変更に合わせて、科目構成、科目名変更などの見直しを行っている。	学問体系を学生に理解させるための学科独自のレポート用紙の使用（実験実習科目）、実験実習科目の目的を意識させるための教材の作成と説明を行っている。	学生生活ハンドブック記載の単位、学習時間、欠席の取り扱いなど、履修に関わる事項および各科目での評価基準の説明を行っている。	入学時から卒業時まで一貫して、生き物・環境・人とそれらの関係性について学ぶことで学生が自らのバイオセラピー学構築を意識できるよう、指導を行っている。	複数担当科目については第三者によるシラバスチェックおよび学期初めにスケジュールおよび評価方法を学科会議にて議論し、改善に役立てている。単独開講科目については第三者によるシラバスチェック後、再度学科内に回覧し、シラバスの見直しに役立てている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・ディプロマポリシーを意識した学問体系を具体化した教育課程編成になっている。	【長所】 ・学生の学問体系理解に役立っている	【長所】 ・学ぶことの意味を考えながら学修を行ったことの正当な評価として、学生が自らの成績を捉えることができる。	【長所】 ・学生が目的を見失うことなく学習できる。	【長所】 ・全学で共通導入されているシステムに準拠しているため、改組後移籍先の学科において元所属学科別の齟齬が生じない。
	【特色】 ・（学生は）ほぼ全ての科目から他領域への応用を意識できる。	【特色】 ・学問体系を理解させた上で、学生に他領域や社会での活用法を意識させることができる。	【特色】 ・なし	【特色】 ・学生の視野が広くなり、進路の幅が広がる。	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	・なし	・学科独自に作成した教材（資料1）	・授業の初回に配布する授業概要、スケジュール、評価基準等の説明資料（資料2）	・なし	・なし

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☐ している ☐ 一部している ☒ していない	☐ 行っている ☐ 一部行っている ☒ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	<u>H30年募集停止であるため、該当しない</u>	<u>H30年募集停止であるため、該当しない</u>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	・なし	・なし

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☐ 一部行っている ☒ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学・学部における方針に則り、～～中略～～教員を研究室に配置する。以下の項目を満たすことを要件とする。 1. 農学を基盤とした生き物・環境・人とそれらの関係性に関する理解を有する教員 2. 人の健康と福祉に資する福祉農学の発展に寄与する意欲を備えている教員	H30 募集停止であるため、今後教員組織編成は出来ないが、組織編成の変更を余儀なくされた場合は、学生への教育の質を保証するための教員間協力体制と研究室規模の変更を検討するなど、過去に対策を行ってきた。今年度は研究室あたりの学生数と教員の割合について検討を行った。	H30 募集停止であるため、募集および採用は行っていない。また、学科所属教員は、全員が嘱託教員であり、昇任は行っていない。	委員会委員や外部からの委託業務等について、担当者一覧を学科開設当初から昨年度まで記録し続けた。本年度からは専任教員は全て改組後農学部の学科に異動したため、学科の業務自体を極力簡素化することに重点を置いている。	研究室あたりの学生数と教員の割合については検討を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学際的要素が強い教員組織編成であることが理解できる	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	・東京農大 HP（資料3）	・学科会議議事録の一部（資料4）	・なし	・H29 までの業務リスト（資料5）	・なし

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名小川 博

学科名・専攻名農学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②
目 標	実学的農業教育による地域社会の担い手養成	学生とのコミュニケーション強化による不本意留年の抑止
実行サイクル	1年サイクル（平成30年～31年）	1年サイクル（平成30年～31年）
実施 スケジュール	9月：世界学生サミットへの参加 11月：収穫祭文化学術展への参加（1年生、3・4年生） 通年：学外農業研修・実習報告会の開催	4月：新入生オリエンテーションの実施 5月、7月：クラス別懇談会の実施 通年：研究室における取り組み 通年：学生相談室との連携
目標達成を測定する指標	就農を含む農業関連産業等への就職者数	不本意留年者数の推移
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	1年生に対しては、世界学生サミット、収穫祭文化学術展への参加を義務付けている。文化学術展へは全研究室から3ないし4年生が出展した。これらの活動は、大学での学びや社会との結びつきについて考えさせる契機となる。地域社会への関心を高めることを目標としている。「農業ビジネスデザイン」等を通じた学外農業研修への参加も積極的にすすめた。就農を含む農業関連産業等への就職者数は増加した。	4月の新入生オリエンテーションは、学科ガイダンス、講義の履修方法の説明会、部やサークルの紹介など、4日間ほとんど欠席者もなく経過した。5月、7月に1年生クラス別懇談会を実施して、大学生活の不安な点などの相談にのった。3年次以降学生全員を研究室に所属させ、きめの細かい指導を実施している。また学生相談室のカウンセラーと連携して、不本意学生の早期発見、対応に努めた。学生相談室の利用、留年者数とも減少した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・1年生の文化学術展への参加は、3年生以降の研究室活動へのオリエンテーションとなり、実学的農業教育の一端に触れる機会として有意義と思われる。	【長所】 ・新入生オリエンテーションでは、立食形式の歓迎パーティーを実施、最後は応援団の協力の下、青山ほとりで締めくくっている。お互いを知り親しくなるよい機会を提供できている。
	【特色】 ・文化学術展の印象は、3年次の研究室選択の大きな要因となっている。目的意識とマッチした研究室選択は、卒業後の進路を決定づける。	【特色】 ・1年生のクラス別懇談会では、新入生歓迎パーティーで、お互いを知ることができよかったとの学生の声が多くあった。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・世界学生サミットが世田谷開催の年次は問題ないが、海外協定校での参加の場合代替案がない。	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・ISF への参加を呼び掛けるなど、海外への意識を高めていくことが課題である。	【課題】 ・なし
根拠資料名	資料2－1	資料2－2 資料2－3

2. 研究に関する総合的事項

	①
目 標	研究シーズの発掘と横断型プロジェクトの推進
実行サイクル	1 年サイクル（平成 30 年～31 年）
実施 スケジュール	通年：横断型研究発表会等の開催
目標達成を測 定する指標	学科教員が中心となって組織した横断型プロジェクト数
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	大学院生ゼミを公開とし、研究室間の相互理解を深めている。学科（学部）横断型プロジェクトとして、総合研究所戦略研究プロジェクトで3年目を迎えた「東京農大厚木キャンパス発のブランド作物の構築～高品質ペピーノでキャンパス興し～」や、フィリピン共同研究プロジェクト「東ミンドロ州におけるカラマンシー産業の発展に向けた研究と能力開発」を学科の教員が主導して実施した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・研究室相互の連携によって、今までにない迅速かつ総合的な成果が挙げられている。
	【特色】 ・厚木キャンパスから社会に向けての発信が多くなっている。また講義や、オープンキャンパス、出張講義などで紹介すると、学生、生徒の関心を強くひく。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし
根拠資料名	資料2－4 資料2－5

3. その他に関する総合的事項

	①	②
目 標	アドミッション・ポリシーに則った学生の確保	公務員（とくに農業職）への就職支援
実行サイクル	1年サイクル（平成30年～31年）	1年サイクル（平成30年～31年）
実施 スケジュール	通年：出張講義 通年：個人・団体見学対応 8月：オープンキャンパス 5月、6月：キャンパスツアー（厚木、世田谷） 11月：進学相談会	2月：公務員試験対策講座
目標達成を測 定する指標	受験者数 新入生アンケート	公務員試験受験者数、合格者数
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	例年通り、出張講義、個人・団体見学に積極的に関与している。オープンキャンパス、キャンパスツアー、進学相談会等にも教員を派遣し、受験生確保に努めた。キャンパスイベント等への参加者、受験者数とも減少した。	公務員試験対策講座を担当する講師を選出し、実施した。公務員合格者数は増加した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・出張講義などを積極的に受け入れることで、受験生の要望にも触れることができ、自らの教育研究活動を振り返ることができる。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・東京農業大学を代表する学科であり、外からの講義等の要望も根強くある。	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・キャンパスに受験生をまねくイベントが多いため、参加する受験生に重複がみられる。	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・こちらから積極的にアピールする場を、キャンパス以外で設定することが課題である。	【課題】 ・なし
根拠資料名	資料2－6 資料2－7	資料2－1

学部農学部

学部長名小川 博

学科名動物科学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	進級・卒業率の向上	卒業生による特別講義の実施	優秀論文発表会の実施
実行サイクル	4年サイクル（平成30年～平成33度）	4年サイクル（平成30年～平成33度）	
実施 スケジュール	・出席状況不良者への指導（毎年6月，7月） ・成績不良者への指導（毎年5月，2月）	・毎年前期1～2回程度（畜産学科同窓会共催）	・毎年1月（各研究室口頭発表1名，ポスター発表2名）
目標達成を測 定する指標	・進級・卒業率	・実施回数	・実施の有無
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	100%，卒業，進級を目指したが，各学年数名留年者は出してしまった	畜産概論の講義の一貫として、7/19 と 7/26 に実施した。	1/17 トリニティーホールと学生会館にて実施 1）口頭発表6名2）ポスター発表12名 ＊一昨年までの口頭発表6題からポスター発表12題を加え発表数を増やした
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・担任によるきめ細かい指導	【長所】 ・学科同窓会との連携	【長所】 ・学科の他研究室の研究を聴講出来る。
	【特色】 ・メール，面談等による個別指導	【特色】 ・本学科卒業生に限定している	【特色】 ・2年生は，ほぼ全員参加していた。
現状説明を 踏まえた	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・日程調整が難しい	【問題点】 ・特になし
問題点及び次 年度への課題	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	学科会議議事録	特別講演用ポスター	優秀卒論発表会講演要旨

2. 研究に関する総合的事項

	①	②
目 標	学会発表への参加	論文発表への参画
実行サイクル	4年サイクル（平成30年～平成33度）	4年サイクル（平成30年～平成33度）
実施 スケジュール	年間を通じて	年間を通じて
目標達成を測 定する指標		
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	研究室個々の活動と、研究室，学科，学部間の連携した活動	研究室毎の活動が多い
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・研究に対するモチベーションのアップ	【長所】 ・研究に対するモチベーションのアップ
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・調査しないと現状が分かり難い	【問題点】 ・調査しないと現状が分かり難い
	【課題】 ・学科 HP, 研究室 HP での積極的な公開	【課題】 ・学科 HP, 研究室 HP での積極的な公開
根拠資料名	関連学会 HP	PubMed, 関連学会 HP

3. その他に関する総合的事項

	①
目 標	改組に伴う新旧カリキュラムの円滑な移行
実行サイクル	3年サイクル（平成30年～33年）
実施 スケジュール	・H30（H29, H30年度カリキュラムの混在） ・H31（H29, H30, H31年度カリキュラムの混在） ・H32（H29, H30, H31年度カリキュラムの混在） ・H33（H30, H31年度カリキュラムの混在）
目標達成を測 定する指標	・時間割編成 ・単位取得状況
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	畜産学科カリキュラム（H29）、動物科学科カリキュラム(H30)、動物科学科カリキュラム(H31)が数年に亘り共存する
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・H31カリキュラム（適正開講科目の見直し）
	【特色】 ・農学部全学科横断的実習，演習，英語科目の設置
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・新旧学科の混在
	【課題】 ・時間割編成
根拠資料名	・時間割編成 ・単位取得状況

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名小川 博

学科名・専攻名生物資源開発学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②
目 標	ディプロマ・ポリシーを実現するための完成年度に向けた教育課程の構築	学生の教育環境の保証（大学生生活を含めた学生の充実した教育環境作り）
実行サイクル	<u>4</u> 年サイクル（平成30年～33年）	<u>1</u> 年サイクル（平成30年～31年）
実施 スケジュール	<u>年間を通じて：学科会議等</u> <u>12～1月：シラバス作成時</u>	<u>年間を通じて：学科会議において教員間で学生の教育および大学生生活の現状を共有する（4～3月）</u>
目標達成を測定する指標	<u>シラバスの作成と点検・見直し</u>	<u>学科会議議事録（教員への周知と議論内容）</u>
自己評価 （☑を記入）	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	学科設置にあたり学科の教育・研究方針を教員間で議論し共有できたこともあり、ディプロマ・ポリシーを意識したシラバス作成に努めている。	学科独自の新入生アンケートの導入やクラス別懇談会の実施、必修科目を中心とした出席状況の把握と学科会議での情報共有に努めた。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・学生の意識や学習意欲が把握できること。
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・学科会議ごとにFD関連の情報共有に努めていること。
現状説明を踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・ディプロマ・ポリシーを意識したシラバス作成の継続に努める。	【課題】 ・特になし
根拠資料名		H30 新入生アンケート H30 新入生アンケート集計 学科会議議事録

2. 研究に関する総合的事項

	①
目 標	生物多様性の解明や保全、生物資源の利活用に関する総合的・横断的研究の基盤構築
実行サイクル	__4__ 年サイクル（平成30年～33年）
実施 スケジュール	<u>年2回程度の研究発表会等の開催</u>
目標達成を測 定する指標	<u>学内プロジェクトや外部資金申請数、採択数</u>
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	フレッシュマンセミナーの時間を活用して、学科教員の研究紹介ワークショップを2回実施した。各教員が現在取り組んでいる研究テーマやプロジェクトに関する情報を教員間だけでなく、学生とも共有できた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・分野横断的な研究テーマ発掘のきっかけとなる。
	【特色】 ・学生を交えた発表会とすることで、発表する教員も分かりやすい説明を心がけ、専門分野以外の研究内容も理解しやすくなる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし
根拠資料名	H30 ワークショップ

3. その他に関する総合的事項

	①
目 標	アドミッション・ポリシーに則った学生と学生数の確保
実行サイクル	4 年サイクル（平成30年～33年）
実施 スケジュール	<u>通年：出張講義</u> <u>通年：個人・団体見学対応</u> <u>キャンパスツアー、オープンキャンパス、収穫祭の進学相談時の対応</u>
目標達成を測 定する指標	<u>来場者数</u> <u>受験者数</u> <u>新入生アンケート</u>
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	出張講義に関しては入試課の協力も得て、関連する分野の依頼があった際は積極的に対応している。個人・団体見学にも見学者の興味に応じた担当教員で対応している。また、学内イベントでは教員のみならず院 生・学部上級生の協力を得て、高校生や保護者への対応に当たっている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・オープンキャンパスでは院生や学部上級生が現在取り組んでいる研究内容の紹介を行い、入学後の具体的イメージを持ってもらうようにした。
	【特色】 ・植物から動物、昆虫、薬草、遺伝資源に至るまで幅広い分野の講義依頼への対応が可能である。 ・学科独自の新入生アンケートを実施した。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし 【課題】 ・新学科としてスタートし、2年目以降も継続して受験者を確保していく努力が必要である。
根拠資料名	H30 キャンパスイベント等結果

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名小川 博

学科名・専攻名デザイン農学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②
目 標	ディプロマ・ポリシーを実現するための完成年度に向けた教育課程の構築	学生の教育環境の保証（大学生活を含めた学生の充実した教育環境作り）
実行サイクル	4 年サイクル（平成30年～33年）	1 年サイクル（平成30年～31年）
実施 スケジュール	年間を通じて：学科会議等 12～1月：シラバス作成時	年間を通じて：学科会議において教員間で学生の教育および大学生活の現状を共有する（4～3月）
目標達成を測 定する指標	学科会議の実施 シラバスの作成と点検・見直し	学科会議議事録（教員への周知と議論内容）
自己評価 （☑を記入）	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学科会議を定期的に実施している。	学科会議で課題点について検討を行う。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	学科会議議事録	学科会議議事録

2. 研究に関する総合的事項

	①
目 標	生物素材、食品素材等の機能性の解明やそれを応用した機能性製品、や機能性食品の利活用研究を行う。また食農デザインの在り方等に関しても基礎的研究から実践までの提案を行う。
実行サイクル	_____4年サイクル（平成 30年～ 33 年）
実施 スケジュール	年1、2回程度の研究発表またはシンポジウム・セミナー等の開催
目標達成を測 定する指標	企業等の受託研究数や共同研究数、開発製品等
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	各教員が専門とする研究領域において取り組みを進めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし
根拠資料名	現状ではないが、学科会議等で確認を進める。

3. その他に関する総合的事項

	①
目 標	アドミッション・ポリシーに則った学生と学生数の確保
実行サイクル	4 年サイクル（平成30年～33年）
実施 スケジュール	通年：出張講義 通年：個人・団体見学対応 キャンパスツアー，オープンキャンパス，収穫祭の進学相談時の対応
目標達成を測 定する指標	来場者数 受験者数 新入生アンケート
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	依頼のあった出張講義や見学依頼に積極的に対応している。 進学相談にも学科教員で対応している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし
根拠資料名	学科会議議事録等

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名小川 博

学科名・専攻名バイオセラピー学科

1. 教育に関する総合的事項

	①
目 標	ディプロマポリシーを実現するための取り組み(含H28 からの継続課題;学科廃止まで継続する)
実行サイクル	4 年サイクル（平成 29 年～32 年；2 年目）
実施 スケジュール	<u>毎年度、前期および後期開始時に学科教員に対して、各学年に段階的にディプロマポリシーの根幹部分である「生き物・環境・人について学び、それらの関係性について考える」機会を与えるように、学科会議内にて指示する</u> <u>指示内容</u> <u>①2 年生に対して； 2 年次において開講される学科の基礎的な内容を取り扱う実験実習の共通レポート用紙に課されている課題「本実習の内容は何に役立つか」への学生の記載内容を各教員がチェックし、2 年次学生のバイオセラピー学の理解度を確認する</u> <u>②3 年・4 年生に対して；東京農業大学における学びの中心である研究室において、専門的な教育を深めるとともに、受講した座学・実験実習演習内容が他研究室・分野、あるいは社会のどのような内容に役立つのかを考えさせる教育を研究室単位で行う</u> <u>③全学年に対して；①～②を通して、領域横断的、学際的要素の強いバイオセラピー学を個々で構築することに役立ち、ひいては他者にバイオセラピー学を説明する時（例；就職活動時に面接官に説明）に役立つことを説明する</u>
目標達成を測定する指標	<u>・学科会議議事録（教員への周知と議論内容）</u>
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した（継続） ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	H30 農学部学部改組の業務とのバランスを考えながら、各教員が工夫しながら実行している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・改組に係る業務繁忙により、学科業務の維持が困難
	【課題】 ・学科閉鎖まで、年度単位の工夫が必須。
根拠資料名	・学科会議での教員への周知資料（資料 6） ・学生からの質問への回答（資料 7） ・実施スケジュール②の学生への周知資料（資料 8）

2. 研究に関する総合的事項

	①	②
目 標	生き物・環境・人に関する基礎的研究およびそれらの関係性に関する実践的バイオセラピー研究を継続し、学部改組後の新生農学部（農学2.0実現）の内容に貢献する知識基盤を構築する	学部生向け研究倫理教育を実施し、学士力の質向上に役立てる
実行サイクル	__4__年サイクル（平成29年～32年；2年目）	__3__年サイクル（平成30年～32年）
実施 スケジュール	H30年度は農学部改組1年目に当たる。そのため、農学2.0のビジョンにのっとり、各々がこれまでの研究にさらに創意工夫を凝らし、新たな展開へと導くよう努力することを目標とする。	2年生に対して；実験実習の時間等を用いて実施 3,4年生に対して；実験実習の時間等を用いて研究室単位で実施
目標達成を測定する指標	・卒論題目（各年度、最終版）	・実施結果のリスト
自己評価 （ ☒ を記入）	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	バイオセラピー学専攻が中心となって、バイオセラピー研究を推進している。	実施スケジュールどおりに実施した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・バイオセラピー学研究の改組後農学部への貢献を意識できる	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・教員個々の新所属先での研究と、現在の学生に対する研究指導をうまく使い分ける必要がある。	【課題】 ・学生および教員が安定的に研究倫理を遵守できるよう、継続的に実施する必要がある。
根拠資料名	・卒論題目（H30年度の一部；資料9）	学部生向け研究倫理教育達成度調査への回答（2019.3.4 総合研究所より依頼のポータル回覧に回答；資料11）

3. その他に関する総合的事項

	①
目 標	通常業務の効率化と学科教員の教育・研究のための時間確保
実行サイクル	<u>4</u> 年サイクル（平成 29 年～32 年；2 年目）
実施 スケジュール	H30 農学部改組に際し、ほとんどのバイオセラピー学科の教員は新生農学部の 4 学科全てにそれぞれ異動する。これは、移行期にはほぼ全ての教員が 2 学科にまたがる業務を負うことを意味するが、改組後完成年度を迎えるまで現状の業務運営を続けていては、研究教育にかかる時間が大幅に削られる。そこで、限られた時間の中で極力研究教育の時間を、特に若手教員に確保していただくために、学科運営を効率化する。具体的なスケジュールとしては、①学科会議の内容を過去の運営ログから抽出し、会議開催回数を最小限にとどめる、②業務が均等に割り振られるように工夫（特定の教員に業務が集中しないように配慮）する。①と②をH29 年度より学科が廃止されるまでの間、継続する。
目標達成を測定する指標	・ 学科独自に使用している運営ログ ・ 年間学科会議回数など、通常業務のまとめ
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した（スケジュール②の見直しが必要） ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	学科会議については議題の精査、連絡方法（メール、ポータル）の使い分けによって、開催回数を大幅に減らすことができた。しかしながら、新所属先での各教員の業務が把握しきれず、業務の均等分担が困難な状況となった。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・ なし
	【特色】 ・ なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・ 学科単位では分散した教員の業務割合が把握できない
	【課題】 ・ 学科の運営業務自体をさらに簡素化する必要がある
根拠資料名	・ 学科会議予定表（資料 10）